

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年4月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは3月31日(木) 9:00現在
※休日の実績は前営業日

		3月30日現在 (矢印は2月末比)	4月の予想
USD	ドル・円 (円)	↗ 121.83	↗ 117.00 ~ 127.00
	日米金融政策の方向性の違いが一段と鮮明となり底堅く推移		
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↘ 1.116	⇒ 1.05 ~ 1.15
	ユーロ・円 (円)	↗ 135.93	↗ 130.00 ~ 140.00
ウクライナ情勢一服とECB利上げ期待再燃から特に対JPYで堅調推移			
GBP	ポンド・ドル (ドル)	↘ 1.313	↗ 1.29 ~ 1.33
	ポンド・円 (円)	↗ 160.01	↗ 155.00 ~ 165.00
ウクライナ情勢の一服でポンドは買い戻される			
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	↗ 91.49	↗ 88.00 ~ 100.00
	NZドル・円 (円)	↗ 85.02	↗ 81.00 ~ 92.00
豪利上げ観測高まり豪ドル円はドル円次第で100円を目指す展開も			
株式 相場	日経平均 (円)	↗ 28,027	↗ 26,000 ~ 29,000
	円安によるグローバル企業の業績期待やウクライナ情勢改善に期待		
	NYダウ (ドル)	↗ 35,229	↗ 34,000 ~ 37,000
	FRB利上げパスやウクライナ情勢の進展を織り込み底堅い展開		
長期 金利	日本 (%)	↗ 0.227	⇒ 0.15 ~ 0.25
	日銀は連続指値オペと国債買入増額でYCCを死守		
	米国 (%)	↗ 2.349	⇒ 2.20 ~ 2.50
	FRBのタカ派化で金利は高止まり		

◆ 今月の注目ポイント

ECB、BOJの金融政策と景気動向

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気動向	◎	【景気動向】 ウクライナ情勢によるコモディティ価格急騰は一服も、高止まりが続く中で欧米のインフレ悪化リスクは依然として残り、景気下押し懸念も広がる。ドイツはロシアがガス供給停止の場合の景気後退リスクに面しており、米国は足元経済指標が堅調も予断を許さない。一方、中国ではコロナ抑制と成長目標達成の両立に苦心。
金融政策	◎	【ECBとBOJ】 直近ユーロ圏のインフレ高進を受け、ECB高官のタカ派発言が相次ぐ。4月のECB理事会では主要政策は現状維持となる見通しであるが、先行き利上げタイミングのヒントを探る。日銀も現行政策を継続すると予想されるが、直近の円安と長期金利の誘導目標上限到達を踏まえて、何らかのメッセージを発するか注目される。
政治	○	【地政学リスク】 ロシアとウクライナの停戦交渉に若干進展が見られるが、停戦合意に至るまでハードルが高い。早期の停戦合意に至ればポジティブも、一方で対ロシア制裁継続となれば世界景気への下押し懸念も強まる。中国、インド等のスタンスを踏まえ国際秩序の見極めも必要。

◆ アジア通貨見通し

人民元・円	↗ 18.50 ~ 20.20	ルピー・円	↗ 1.57 ~ 1.63
バーツ・円	⇒ 3.50 ~ 3.85	ウォン・円	↗ 9.80 ~ 10.50
ルピア・円	↗ 0.830 ~ 0.870		

◆ 今月の重要日程

1日(金) 日	日銀短観<3月調査>	14日(木) 欧	ECB理事会
1日(金) 欧	3月CPI	14日(木) 米	3月小売売上高
1日(金) 米	3月雇用統計	18日(月) 中	3月生産・小売・投資
1日(金) 米	3月ISM製造業	22日(金) 日	3月CPI
6日(水) 米	FOMC議事録<3/15,16>	22日(金) 欧	4月PMI
12日(火) 米	3月CPI	28日(木) 日	日銀金融政策決定会合

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

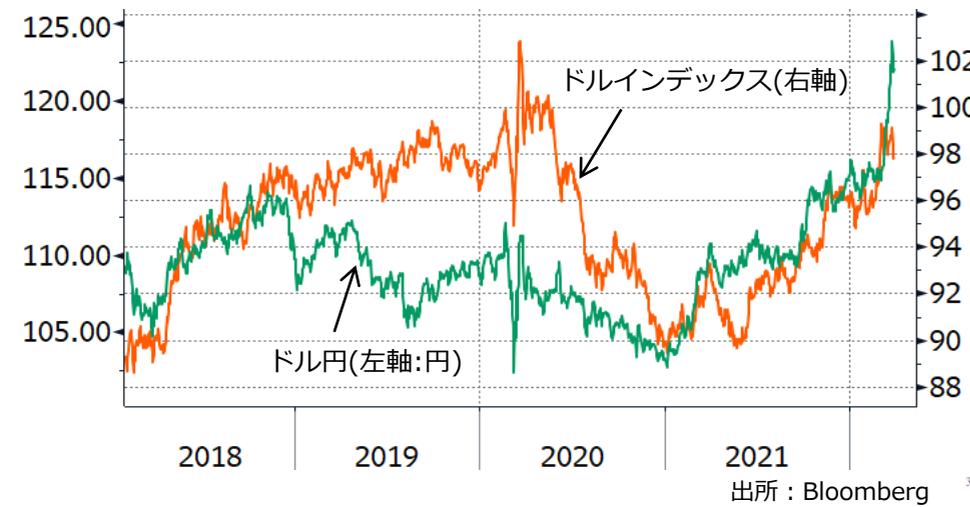


りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2022年4月号)

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円

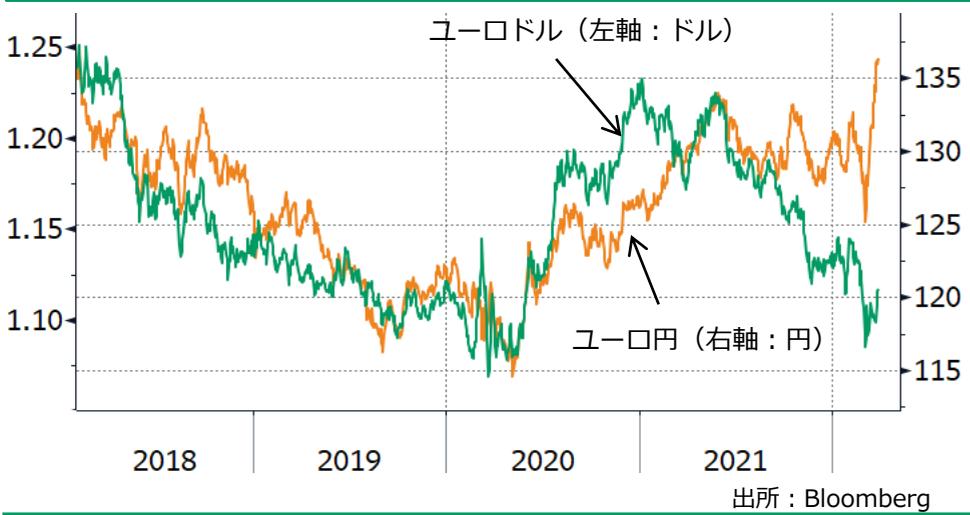
米ドル円	ドル円は上昇	117.00 - 127.00円
------	--------	------------------



日米金融政策の方向性の違いが一段と鮮明となり、ドル円は底堅く推移
 3月のドル円相場は月を通してほぼ一本調子での上昇となり、一時6年半振りとなる125円台をつける場面もあった。月間の値幅が10円を超えるのは2020年3月のコロナショック以来。最大の材料は3/15-3/16で実施されたFOMCにて事前の想定を上回る利上げ見通しが示された点。特に、FRBが長期的な均衡水準としている中立金利（ロングラン）を2023年にも超える見通しとされた点がタカ派サプライズとなった。その後もパウエル議長はじめFRB高官から5月の0.5%利上げを含めたタカ派発言が相次ぎ、市場での一段の利上げ織り込み上昇とともにドル円は堅調に推移した。かかる中で日銀が初の「連続指値オペ」を含めた国内金利の上昇抑制策を実施したことも、日米金融政策の方向性の違いや金利差の拡大が強調する結果となり、ドル円相場を一段を押し上げた。
 125円台は2015年に黒田総裁が円安牽制発言を行った「黒田ライン」として意識されるほか、過度や円安と物価上昇を懸念する声が国内でも徐々に高まっていることから、一本調子での上昇には政府サイドからの牽制が入る可能性もあるが、上述の日米金融政策の方向性の違いは一段と鮮明になっており、4月のドル円相場は引き続き底堅い推移を予想する。

ユ ー ロ

ユーロドル	ユーロドルは横ばい	1.05 - 1.15ドル
ユーロ円	ユーロ円は上昇	130.00 - 140.00円



ウクライナ情勢の一服とECB利上げ期待の再燃により、特に対JPYでは堅調に推移
 3月のEUR相場は対USDでは下落、対JPYでは大幅な上昇となった。ウクライナ情勢の緊迫化と対ロシア経済制裁は、ロシアとの経済的な結びつきの強い欧州経済の重荷となるとの見方のほか、FRBのタカ派方針を受けたUSD高により、対USDでは上値重く推移した。一方、日銀の金利抑制方針や日本の交易条件悪化を背景としたJPY安が大きく進んだことにより、対JPYでは堅調に推移した。
 ウクライナ情勢に関して依然不透明感は強いものの、足元では両国での交渉が進み停戦期待が高まっていることから、EURには一定の買戻し圧力が生じやすい。また、ECB高官からも年内利上げを再び意識させるような発言も見られ、ウクライナ情勢を受けて後退していたECBの利上げ期待が再燃する可能性もあろう。利上げ加速が意識されるUSDとの対比ではEURの上値は抑制されそうだが、日銀が金利抑制方針を鮮明とするなか、対JPYでは引き続き堅調に推移するだろう。

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

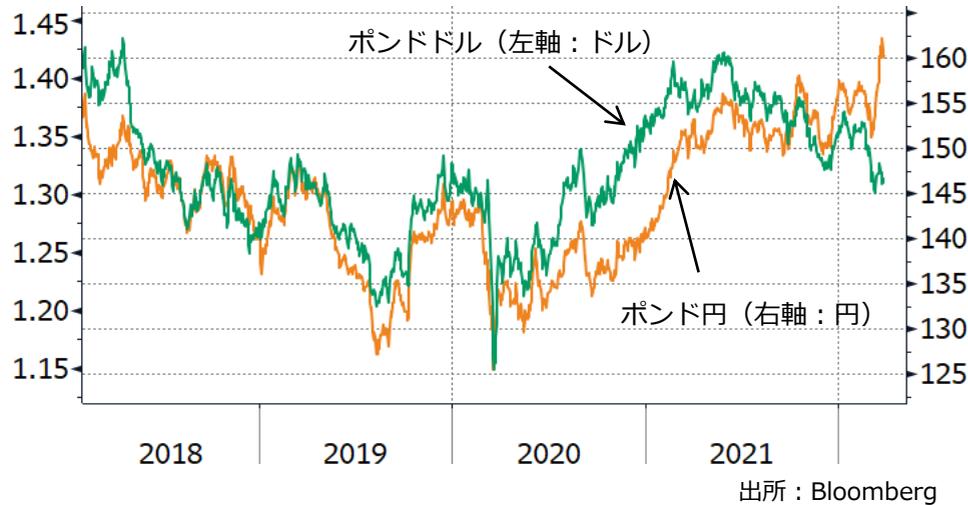
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2022年4月号)

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポンド



ポンドドル	ポンドドルは上昇	1.29- 1.33ドル
ポンド円	ポンド円は上昇	155.00 - 165.00円

ウクライナ情勢の一服でポンドは買い戻される

3月のポンドは対ドルで下落、対円で上昇となった。ウクライナ情勢が悪化する中、リスク回避の動きが強まり、ポンドはユーロの下落に連れて売られた。欧米のロシアに対する制裁でインフレ高進による景気下押し懸念もポンドの売り材料となった。ポンドドルは1.3まで下落すると売りが一巡し、ロシアとウクライナの停戦交渉期待もあるなかで下げ幅を縮小。BOEは3月MPCで事前予想通りに0.25%利上げを行い、市場反応は限定的だった。

4月のポンドは対ドル、対円ともに上昇を予想。ロシアとウクライナの停戦交渉に進展が見られる中、スタグフレーション懸念が後退しポンドは反発しやすい。英外相と首相がロシアへの制裁解除とその条件に関して言及したが、その実現可能性が高まると一段上昇するだろう。米国の利上げはFRB高官のタカ派発言から既に相当織り込まれており、これ以上の材料がなければドル高も一服しやすくポンドドルの支えに。対円では日銀の緩和継続姿勢から引き続き堅調に推移するだろう。

豪ドル・NZドル



豪ドル円	豪ドル円は上昇	88.00 - 100.00円
NZドル円	NZドル円は上昇	81.00 - 92.00円

オセアニア通貨は堅調、豪利上げ観測高まり豪ドル円は100円を目指す展開も

3月の豪ドル円、NZドル円相場は上昇。ウクライナ情勢の改善期待等からリスク資産に買戻しの動きが入る中で両通貨は月後半にかけて対ドルでも上昇。資源高の流れが継続していることも追い風となった。対円レートは急ピッチで進む円安も相まって月末にかけて急上昇、対円でAUD、NZDともに9%を超える上昇となった。豪中銀のロウ総裁はウクライナ情勢への懸念を示しつつも、年内の利上げについて妥当との見方を示す。失業率の低下やインフレ懸念から市場の豪利上げ見通しは急速に高まっており、NZDと比べてもAUDが買い優勢の展開。

今月も地政学動向等で振れつつも円安主導で豪ドル円、NZドル円は上昇しやすいと想定している。ドル円の上振れ次第で2014年以來の1豪ドル100円の水準を目指す展開も想定。ただし先行きを見通すと豪ドル円、NZドル円相場は4-5月がピークとなりやすいとみている。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

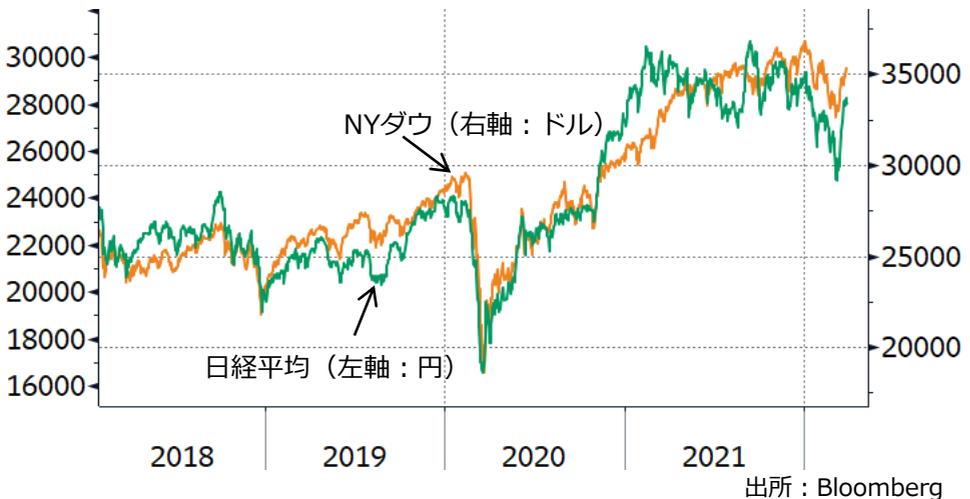
©注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2022年4月号)

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株式見通し



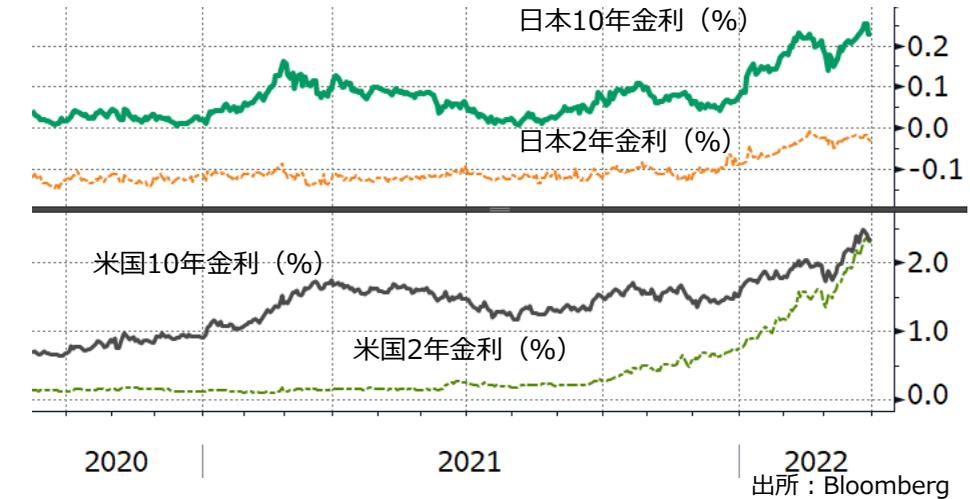
日経平均 日経平均は上昇 **26,000 - 29,000円**

円安進行を受けたグローバル企業の業績期待やウクライナ情勢の進展に期待
 3月の日経平均はFRBの急速なタカ派化やロシアのウクライナ侵攻を巡る不透明感から25,000円を割り込む場面もあったが、その後大きく反発した。4月の株価も底堅い展開を予想。ウクライナ情勢やFRBの金融政策の道筋は概ね織り込まれ、足元6年ぶりの円安水準はグローバル企業の業績期待も高まりやすい。また4月末にも策定される物価上昇に対応する政府の経済対策も注目される。一方、先月までに株価は急ピッチな上昇となっており、一服感も出やすい。

NYダウ ダウは上昇 **34,000 - 37,000ドル**

FRB利上げパスやウクライナ情勢の進展を織り込み底堅い展開
 3月のNYダウは月初はFRBの金融政策正常化やロシアのウクライナ侵攻を受け上値重く推移したものの、その後ウクライナ情勢の進展期待等から大幅反発となった。4月のNYダウは引き続きウクライナ情勢の進展や、順調に回復を遂げる米景気から底堅い展開を予想する。一方で先月は急ピッチな反発となっていることから株価には一服感も出やすい。

長期金利見通し



日本国債10年 金利は横ばい **0.15 - 0.25%**

日銀は連続指値オペと国債買入増額でYCCを死守
 3月の円金利はFRBタカ派化に伴う米金利上昇に連れて上昇も、YCC誘導目標レンジ上限の0.25%では日銀による連続指値オペや、長期国債買入増額を受け上げ幅を縮小した。今月の円金利は横ばい圏での推移を見込む。FRBの連続利上げ観測が燦る中、米金利は高止まりしやすく、円金利も上昇圧力がかかりやすい。一方で、日銀がYCC死守の方向性を示したことから一段の金利上昇は見込みづらく、0.25%手前での値動きが継続するものと見る。

米国債10年 金利は横ばい **2.20 - 2.50%**

FRBのタカ派化で金利は高止まり
 3月の米金利はタカ派的なFOMCや大幅利上げを示唆するFRB高官の発言を受け、大きく上昇した。今月の米金利は横ばい推移を予想。インフレ高進を受けFRBのスタンスは大きくタカ派化しており、金利は高止まりが継続しやすい。一方でFRBの中立金利に変化がない中においては一段の金利上昇も持続性には欠ける印象。ウクライナ情勢の進展期待に伴う原油価格の動向も注視。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年4月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		3/30		3月の相場推移		4月の予想	解説
中国	人民元/円	19.17	➡	18.12~19.59	➡	18.50~20.20	3月のドル人民元相場は米国の金融引締加速と中国当局の金融緩和観測を受けて一時6.4台に元安ドル高が進んだが、当局はMLF・LPRの政策金利を据え置くと人民元は買い戻された。対円レートは急速な円安進行により2015年以来1元19円台に乗せた。今月のドル人民元はドル高主導でじりじりと上昇基調とみるが、高水準の経常黒字が続く中で値幅を伴った動きにはなりづらいとみる。
	ドル/人民元	6.360	➡	6.307~6.411	➡	6.33~6.45	
タイ	バーツ/円	3.654	➡	3.476~3.695	➡	3.50~3.85	3月のバーツ相場は資源高やFRBの引き締め加速が意識されたドル高を受けて下落。新興国通貨の中でも特に弱く、月末にかけ1ドル33バーツ台後半で推移したが、円はそれ以上に軟調でバーツ円は1バーツ3.7円手前まで上昇。3/30にタイ中銀は政策金利を0.50%に据置き、景気回復支援の姿勢を鮮明とした。当面バーツは軟調推移とみるが、バーツ・円はもみ合い予想。
	ドル/バーツ	33.30	➡	32.42~33.80	➡	33.0~35.0	
インドネシア	ルピア/円	0.849	➡	0.797~0.869	➡	0.830~0.870	4月のドルルピアは横ばいを予想。3月は地政学リスクの高まりとFRBのタカ派姿勢にもかかわらず、ルピアは対ドルで小幅増価となった。その背景には資源大国として資源価格上昇の恩恵を受けているところがある。インドネシア中銀の利上げを急がない姿勢がルピア安につながりやすいが、資源価格上昇が引き続きルピアのサポート材料となるため、4月はレンジ内で推移する可能性が高いだろう。
	ドル/ルピア	14,343	➡	14,275~14,415	➡	14,250~14,450	
インド	ルピー/円	1.605	➡	1.491~1.641	➡	1.57~1.63	4月のドルルピー相場は下落（ルピー高）を予想。3月はウクライナ情勢の悪化やコモディティ価格高騰による赤字拡大懸念からドルルピー（ルピー安）が上昇した。4月はウクライナ情勢が沈静化していく中、ルピーは買い戻されやすいただろう。また、CPIが2か月連続目標を上回る中、緩和政策を続けてきたインド中銀がタカ派に転じる観測もルピーの買い材料となるだろう。
	ドル/ルピー	75.91	➡	75.57~76.98	➡	74.50~76.50	
韓国	ウォン/円	10.071	➡	9.32~10.18	➡	9.80~10.50	3月のウォン相場は9日大統領選を挟んでウォン安が進行し対ドルで一時1,244ウォンをつけたが、その後急速に買い戻しの動きが進んだ。対円相場も一時軟調に推移したものの、月末にかけての円安加速により2018年来の10円台に上昇した。今月のウォン相場は1200ウォン/ドル近辺で底堅い推移とみており、円安強まる場面では対円相場の一段高にも警戒。
	ドル/ウォン	1,210	➡	1,202~1,244	➡	1,180~1,240	

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

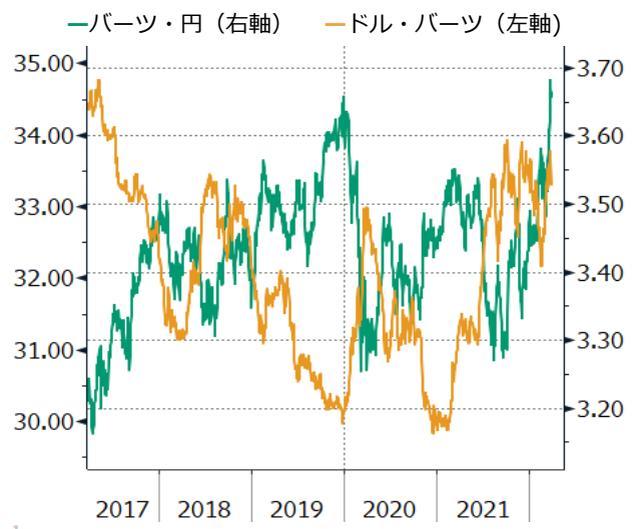
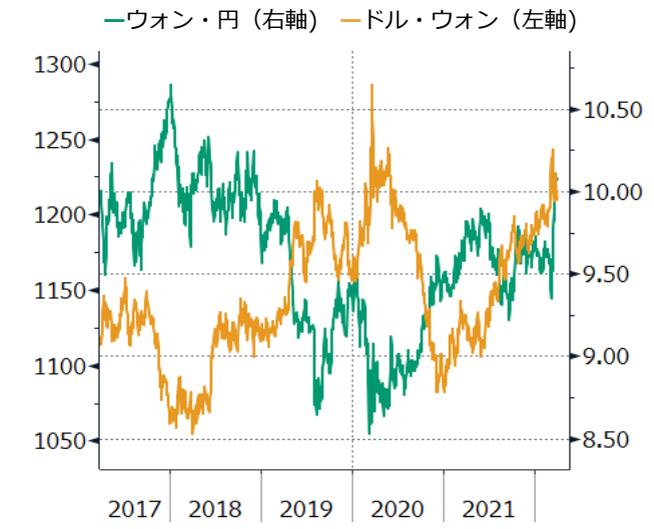
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2022年4月号)

◆ 新興国通貨チャート



◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年4月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 年間為替見通し

		2022年			2023年	ポイント
		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
ドル円	レンジ	115~130	114~126	112~124	110~122	急ピッチな金融正常化で前半底堅く推移も、年後半はFRB対応一服と中間選挙の不透明感が上値抑える
	期末値	122	120	118	116	
ユーロドル	レンジ	1.00~1.15	1.00~1.20	1.12~1.25	1.10~1.25	FRBが金融正常化を先行させるなか、地政学リスクの高まりがEURの重石に。一方、年後半はFRBの対応が一服するなか、代わってECBが正常化サイクルに入る可能性があり、EURの反転上昇を見込む。
	期末値	1.12	1.13	1.18	1.16	
ユーロ円	レンジ	126~143	125~145	130~150	125~145	FRBの金融引き締めやウクライナ情勢の不透明感が続く中、上値が抑えられるが、英中銀はインフレ抑制に前向きな姿勢を示し、ポンドには一定の支え。年後半は米政治の不透明感から上値が重くなると予想。
	期末値	137	136	139	135	
ポンドドル	レンジ	1.29~1.40	1.28~1.38	1.28~1.35	1.27~1.34	FRBの金融引き締めやウクライナ情勢の不透明感が続く中、上値が抑えられるが、英中銀はインフレ抑制に前向きな姿勢を示し、ポンドには一定の支え。年後半は米政治の不透明感から上値が重くなると予想。
	期末値	1.34	1.33	1.31	1.30	
ポンド円	レンジ	150~170	145~165	144~160	139~159	FRBの金融引き締めやウクライナ情勢の不透明感が続く中、上値が抑えられるが、英中銀はインフレ抑制に前向きな姿勢を示し、ポンドには一定の支え。年後半は米政治の不透明感から上値が重くなると予想。
	期末値	164	160	155	150	
ドル人民元	レンジ	6.30~6.55	6.40~6.75	6.40~6.75	6.40~6.75	中国の活発な輸出環境等から人民元も堅調に推移するが、米金融引締め加速等を受けて徐々に対ドル軟化とみる。対円相場は円安主導で上値を試す場面も。
	期末値	6.45	6.60	6.50	6.40	
人民元円	レンジ	18.0~20.0	17.4~19.4	17.2~19.2	17.2~19.0	中国の活発な輸出環境等から人民元も堅調に推移するが、米金融引締め加速等を受けて徐々に対ドル軟化とみる。対円相場は円安主導で上値を試す場面も。
	期末値	18.9	18.2	18.2	18.1	
豪ドル円	レンジ	85.0~100.0	85.0~97.0	84.0~96.0	80.0~92.0	豪州も年央以降の利上げ意識され、日銀との金融政策差で上昇も年後半はピークアウト。
	期末値	93.0	90.0	89.0	86.0	
タイバーツ円	レンジ	3.40~3.85	3.35~3.75	3.25~3.65	3.20~3.60	タイバーツに資源高はマイナス影響も、円安圧力も強く当面バーツ円は堅調。年後半ドル円に連れ安。
	期末値	3.55	3.45	3.40	3.35	

◎注意事項

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

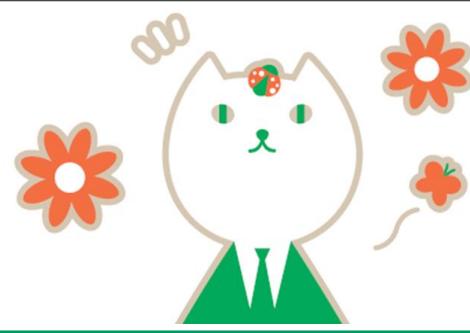
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年4月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他		日本	米国	その他
4/1(金)		3月ISM製造業景況指数 3月雇用統計	(中) 3月製造業PMI	4/18(月)			(中) 1-3月期GDP (中) 3月生産・小売・投資
4/4(月)		2月製造業受注		4/19(火)		3月住宅着工・許可件数	
4/5(火)	10年債入札 2月家計調査 2月毎月勤労統計 (速報)	2月貿易収支 3月ISM非製造業景況指数	(豪) 準備銀行理事会	4/20(水)	3月貿易統計	20年債入札 3月中古住宅販売 米地区連銀経済報告	
4/6(水)		FOMC議事要旨		4/21(木)		4月フィラデルフィア連銀製造業景況指数	
4/7(木)	30年債入札			4/22(金)	3月消費者物価指数		(欧) 4月PMI (速報値)
4/8(金)	3月景気ウォッチャー調査			4/25(月)			(独) 4月IFO企業景況感指数
4/11(月)		3年債入札	(中) 3月CPI	4/26(火)		2年債入札 3月新築住宅販売 4月消費者信頼感指数	
4/12(火)	3月企業物価指数 5年債入札	10年債入札 3月CPI	(中) 3月貿易統計 (独) 4月ZEW景況感指数	4/27(水)	2年債入札	5年債入札	
4/13(水)	2月機械受注	30年債入札 3月PPI		4/28(木)	3月住宅着工件数 黒田日銀総裁定例会見 日銀金融政策決定会合 (結果発表)	1-3月期GDP (速報値) 7年債入札	
4/14(木)	20年債入札	3月小売売上高	(欧) ECB定例理事会	4/29(金)	(昭和の日)	3月個人所得・消費支出	(中) 4月製造業PMI
4/15(金)		4月NY連銀製造業景況指数		4/30(土)			(中) 4月PMI



◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年4月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【3/5~3/10】

◎全人代今年のGDP「5.5%前後」に設定

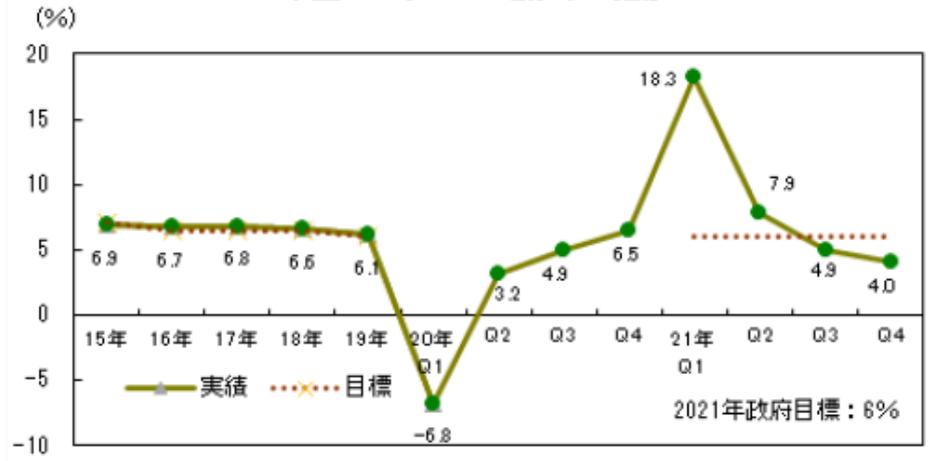
中国の李克強首相は5日、政府活動報告（施政方針演説に相当）を行い、今年の国内生産総値（GDP）成長率を「5.5%前後」とする目標を表明した。同目標値は前年から0.5ポイント引き下げたものの、前年数値が高い中で「中高速成長になる」と強調。また、経済の下押し圧力がある中、マクロ経済の基盤安定化に力を入れ、経済を合理的な範囲内で保つと表明。同時に、共産党と政府が掲げる「6つの安定」（雇用、金融、貿易、外資、投資、見通しの安定）を引き続き重視としている。

【3/11~3/17】

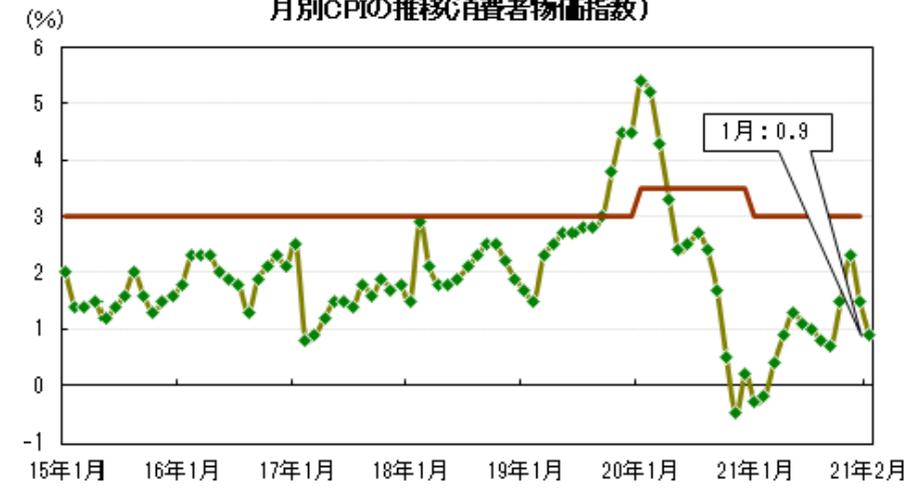
◎2月の新車販売が増加、うち新エネルギー車（NEV）も好調

中国自動車工業協会は11日、今年2月の新車販売台数が前年同期比18.7%増の173万7,000台だったと発表した。うちに電気自動車（EV）など「新エネルギー車（NEV）」の販売が2.8倍に伸びて全体を押し上げた。また、自動車の輸出も好調で、2月の輸出台数は60.8%増加の18万台に、NEV車の輸出をけん引した。自動車各社の新車投入が相次ぐほか、政府の減税対策が後押しし、新車市場は着実な成長が見込まれる。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年4月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【3/18~3/24】

◎ゼロコロナ 地方財政を圧迫

中国ではオミクロン変異株の感染拡大を受け、各地で厳しい行動制限措置が導入され、対策費の膨張が地方財政に一段と圧迫するとの懸念が高まっていると地元メディアが伝えている。格付け会社ムーディーズはゼロコロナ（ダイナミック・クリアリング）政策を遂行すれば、経済を更に下押しするリスクに十分注意する必要がある」との見解を示した。一方、習近平国家主席は18日の会議で、ゼロコロナ政策の徹底と早期の感染拡大抑制を指示した。

◎一部の小規模企業所得税20%に引き下げ

中国財政部は18日、一部の小規模企業を対象に所得税を25%から20%に引き下げると発表した。適用対象は、年間課税所得が300万元（47万2000ドル）を超えず、資産が5000万元以下、従業員が300人以下の企業。本対策は、景気が減速する中、小規模企業の負担軽減を目的としている。中国の李克強首相は、減税と税還付の合計は今年2兆5000億元になると示した。なお、中国都市部では、雇用の約8割を小規模企業が占めている。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2021/4	2021/5	2021/6	2021/7	2021/8	2021/9	2021/10	2021/11	2021/12	2022/1	2022/2
実質GDP成長率	%	-	-	7.9	-	-	4.9	-	-	4.0	-	-
消費者物価上昇率	%	0.9	1.3	1.1	1.0	0.8	0.7	1.5	2.3	1.5	0.9	0.9
都市部調査失業率	%	5.1	5.0	5.0	5.1	5.1	4.9	4.9	5.0	5.1	-	5.5
輸出額	10億ドル	263.5	263.6	281.0	282.3	294.0	305.3	299.6	324.8	340.4	327.3	217.4
輸入額	10億ドル	222.6	220.3	230.9	226.4	234.8	237.5	214.9	253.0	246.0	241.9	186.8
経常収支	100万ドル	-	-	122,749	-	-	196,340	-	-	315,740	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,198.2	3,221.8	3,214.0	3,235.9	3,232.1	3,200.6	3,217.6	3,222.4	3,250.2	3,221.6	3,213.8
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	6.52	6.42	6.43	6.48	6.48	6.46	6.41	6.39	6.37	6.36	6.34

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年4月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○新型コロナウイルス感染状況について

中国ではゼロコロナ政策が継続中ですが、上海市内のコロナ感染状況が悪化している関係で、自宅が16日から48時間の閉鎖管理体制が実施され、住んでいる小区（集合住宅）を出られなくなりました。

周りにある複数の小区が先週から閉鎖となったため、特に驚いたこともなかったのですが、ついに身近に発生したと落胆してしまいました。上海市内における閉鎖管理のエリアが一気に増えていることで、ニーズの増加とドライバーの不足の問題が顕在化し、デリバリーサービスの利用も通常よりかなり難しくなっています。

今までの経験ですと、朝6時前にデリバリーを予約しないと一日中利用できない状況です。

私の場合、17日の夜12時で閉鎖管理が解除される予定でしたが、今朝出て行ってみたら、プラス48時間で閉鎖が「19日まで続く」というお知らせがゲートに貼られていたと気づきました。すでにPCR検査を3回受けましたが、4回目のPCR検査で解除されたいなと思います。



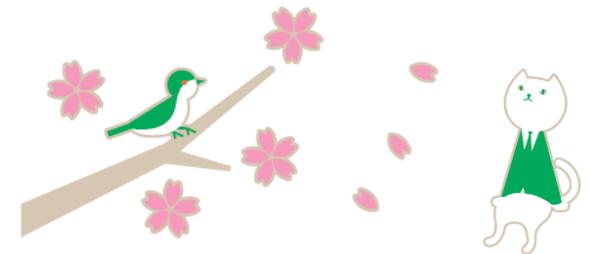
24日、上海で確認された新型コロナ新規感染者数1609人と記録を更新しました。内訳としては感染者29人、無症状感染者1580人となります。

重点エリアにおける移動制限が引き続き導入されており、状況が好転するまで解禁されないだろうと推測されます。

オフィスビルに入居している多くの企業は、在宅勤務の体制に移ったせいか、街中の車や人が先週と比べ一段と少なくなっているようです。

先日、私事で繁華街の淮海路に足を運んだところ、昔のような賑やかな光景が見えず、人と車の流れが突然消えてしまったように錯覚してしまいました。

このように静まり返った上海ですが、桜は満開で、見ごろを迎えています。



◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年4月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆タイ中央銀行が発表した2022年1月の主要経済指標（速報値）によれば、タイ経済は小幅に減速した。新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」の感染拡大を受け、個人消費と投資が軟化した。民間投資指数は前年同月比4.8%上昇したが、季節調整済みで前月比では0.7%減少。機械・設備投資は前月から変わらず。建設資材の販売が低調で建設投資は減少した。民間消費指数は前年同月比4.5%上昇したが、ほぼすべての分野が季節調整済みで前月比わずかに低下した。鉱工業生産指数は前年同月比1.99%増。自動車セクター等が減少。12月21日から1月31日まで入国者への隔離なし入国制度を一時停止の影響で外国人旅行者数が減少した。公共支出も前年同月比減少した。経常支出の減少が主因。

◆タイ商務省によると、2022年1月の輸出額は前年同月比8.0%増の212億5,860万米ドルだった。1月の輸入額は同20.5%増の237億8,500万米ドルで、貿易収支は25億2,640万米ドルの赤字となった。国別の輸出額にみると、米国向けが最多（24.1%増）。次いで、中国（6.8%増）、と日本（0.1%増）の順。ロシア向けの輸出はタイの輸出総額の0.38%を

占め、ウクライナ向けは0.04%にとどまっていることから、現時点ではタイの輸出部門に影響を及ぼしていないと指摘した。一方、1月の対米ドル・パーツ相場は平均で1米ドル=33.22パーツで、前月の33.55パーツからパーツ高となった。

◆タイ国家経済社会開発委員会（NESDC）が発表した2021年第4四半期（10～12月）の国内総生産（GDP）成長率は前年同期比1.9%増だった。この結果、2021年通年のGDP成長率は前年比1.6%増と、前年のマイナス6.2%からプラスに転じた。2022年のGDP成長率は3.5～4.5%になるとしている。

◆タイ商務省が発表した2月の一般消費者物価指数（CPI）は、前年同月比5.28%上昇した。2008年9月の6.00%上昇以来、13年余りぶりの高水準を記録した。原油相場の上昇に従って燃料価格が高騰したほか、食品・飲料も値上がりしたことが要因。部門別では、食品・飲料が同4.51%上昇、非食品が同5.79%上昇。今年1～2月CPI平均値は前年同期比4.25%上昇。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2021/4	2021/5	2021/6	2021/7	2021/8	2021/9	2021/10	2021/11	2021/12	2022/1	2022/2
実質GDP成長率	%	-	-	7.7	-	-	-0.2	-	-	1.9	-	-
消費者物価上昇率	%	3.4	2.4	1.3	0.5	-0.0	1.7	2.4	2.7	2.2	3.2	5.3
失業率	%	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	2.3	2.3	2.3	1.6	1.6	-
輸出額	100万ドル	21,403	23,053	23,703	22,651	21,976	23,036	22,739	23,648	24,930	21,259	-
輸入額	100万ドル	20,931	22,056	22,551	22,467	23,192	22,426	23,109	22,629	25,284	23,785	-
経常収支	100万ドル	-77	-1,583	-818	-1,590	-2,731	-791	-1,058	346	-1,378	-2,204	-
外貨準備高	10億ドル	250.4	251.8	246.5	248.0	252.0	244.7	246.1	243.0	246.0	242.8	245.1
主要政策金利	%	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
対ドル為替レート	パーツ	31.3	31.3	31.5	32.6	33.1	33.1	33.5	33.1	33.6	33.2	32.7

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レボ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2022年4月号)

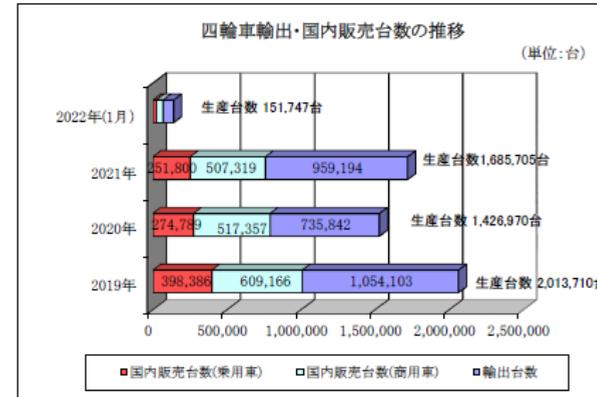
タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

タイにおける自動車産業の動向

出所:タイ工業連盟 (FTI)

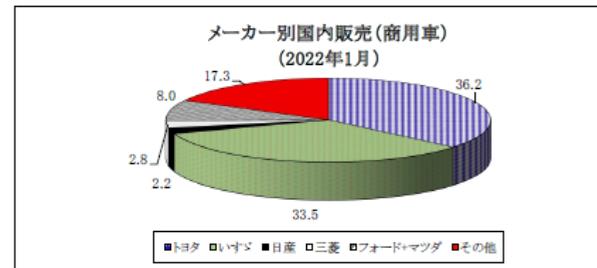
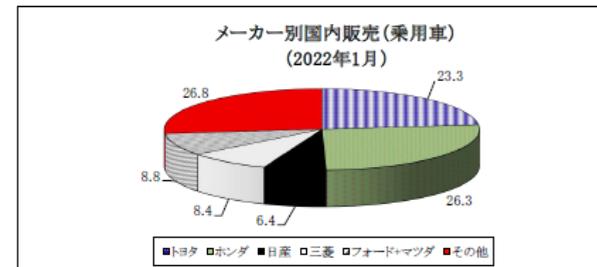
		2019年	2020年	2021年	2022年 (1月)	前年同月比 (%)	1月
【台数】 (台)							
四輪	生産台数						
	乗用車	804,340	542,437	599,844	45,235	84.4	45,235
	商用車	1,209,370	884,533	1,085,861	106,512	112.7	106,512
	合計	2,013,710	1,426,970	1,685,705	151,747	102.5	151,747
国内販売台数	乗用車	398,386	274,789	251,800	23,365	145.1	23,365
	商用車	609,166	517,357	507,319	46,090	117.9	46,090
	合計	1,007,552	792,146	759,119	69,455	125.8	69,455
	輸出台数	1,054,103	735,842	959,194	69,833	94.2	69,833
二輪	生産台数	1,948,480	1,615,319	1,780,654	169,171	102.0	169,171
	国内販売台数	1,718,587	1,516,096	1,606,481	145,095	107.0	145,095
	輸出台数	948,839	727,152	965,967	85,864	107.6	85,864
【完成車輸出金額】 (百万バート)							
四輪		545,968	410,912	561,147	42,773	103.2	42,773
二輪		69,933	85,802	75,985	6,563	87.1	6,563



【メーカー別国内販売台数】

出所:トヨタ自動車

		2019年	シェア (%)	2020年	シェア (%)	2021年	シェア (%)	2022年 (1月)	前年同月比 (%)	シェア (%)	1月
トヨタ	乗用車	117,708	29.5	68,152	24.8	62,403	24.8	5,450	107.4	23.3	5,450
	商用車	214,672	35.2	176,164	34.1	177,320	35.0	16,699	131.6	36.2	16,699
	合計	332,380	33.0	244,316	30.8	239,723	31.6	22,149	124.7	31.9	22,149
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車	168,215	27.6	181,194	35.0	184,160	36.3	15,426	101.2	33.5	15,426
	合計	168,215	16.7	181,194	22.9	184,160	24.3	15,426	101.2	22.2	15,426
ホンダ	乗用車	96,154	24.1	77,419	28.2	76,886	30.5	6,153	135.9	26.3	6,153
	商用車	29,679	4.9	15,622	3.0	11,806	2.3	2,372	209.7	5.1	2,372
	合計	125,833	12.5	93,041	11.7	88,692	11.7	8,525	150.7	12.3	8,525
日産	乗用車	35,809	9.0	27,120	9.9	19,790	7.9	1,484	95.7	6.4	1,484
	商用車	28,605	4.7	17,438	3.4	9,906	2.0	1,029	162.8	2.2	1,029
	合計	64,414	6.4	44,558	5.6	29,696	3.9	2,513	115.2	3.6	2,513
三菱	乗用車	38,879	9.8	22,363	8.1	18,456	7.3	1,973	163.1	8.4	1,973
	商用車	49,365	8.1	35,046	6.8	28,732	5.7	2,861	135.6	2.8	2,861
	合計	88,244	8.8	57,409	7.2	47,188	6.2	4,834	145.6	7.0	4,834
その他	乗用車	109,836	27.6	79,735	29.0	74,265	29.5	8,305	221.8	35.6	8,305
	商用車	118,630	19.5	91,893	17.7	95,395	18.7	7,703	105.5	20.2	7,703
	合計	228,466	22.7	171,628	21.8	169,660	22.3	16,008	145.0	23.0	16,008
合計	乗用車	398,386	100.0	274,789	100.0	251,800	100.0	23,365	145.1	100.0	23,365
	商用車	609,166	100.0	517,357	100.0	507,319	100.0	46,090	117.9	100.0	46,090
	合計	1,007,552	100.0	792,146	100.0	759,119	100.0	69,455	125.8	100.0	69,455



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さま自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。